

編集後記



真夏日の午後、汗をふきふき、編集後記を書いています。編集計画、原稿依頼、校正の期間は、教育臨調問題で世論がわいた期間でもありません。異例の真夏日は、あたかもこの教育臨調問題の象徴しているよう。一昨日（八月七日）法案は成立、この先が思いやられます。

さて、「新潟の教育情報」第三号の特集は、「新潟県の進路・進学問題です。創刊号は「新潟県の暴力・非行を考える」、第二号は「新潟県の道徳教育を考える」ですが、それらと無縁のものではありません。無縁どころか大きなかわりがあります。

高校教育問題審議会の第一次答申（今日の教育荒廃の原因と対策について）は、
「その原因は単純なものではなく、問題をおこす本人にももちろん責任はあるが、子どもをとりまく日本の社会が、きびしい選別の社会

であるため、好むと否にかかわらず学歴偏重の風潮を生む結果となり、それが今日のはげしき受験戦争、塾通い、教育産業の台頭……。

一方、生徒の問題行動に率先して取り組まねばならぬ立場にある教職員や学校、行政当局には、柔軟性がなく、積極的な対応に欠けており、全員が一致協力して事にあたる気概に乏しい……。」

と、原因は単純ではなく、正に複合汚染であることを認めながらも、
(1) 教育の荒廃をもたらした最大の原因は、極度にエスカレートした受験競争にある。(2) 以下省略) としている。この第三号の特集は、非行と道徳教育と進路進学の相関関係を改めて考え直す契機となるにちがいない。

なお、前掲の「答申」や、「市町村別非行少年比率」は資料ではあるが、事実を照らして吟味すべき内容をもっているように思われる。後者

の非行比率と地域の教育力との相関の問題は、小出町千歳地区や新潟市大江山地区の調査などで、少しすっきり明らかなってくるものと思われる。

進路進学問題は、中学校、高等学校の先生にとって頭の痛い問題である。しかし、生徒にとっては頭が痛いところではなく、自分の一生にかかわる大問題である。制度も悪いにちがいないが、制度が改まる(??)のを待っているわけにはいかない。子育ては日常的なしごとである。「子育てをしながら世直しをする」教師や父母のしごとは大変である。こんなことを考えながら編集、校正をしている。

「真理は常に具体的である」という言葉があるが、いただいた実践記録の内容は具体的で感動的である。ご多忙中原稿を書いてくださった方に、深く謝意を表したい。

事務局の手不足と原稿の遅れから各地の夏の集いに活用できなくなつたことをおわびいたします。

会員、読者の皆様様、どうぞお元気で。みのりある夏にしたいものです。

(若月又次郎)

にいがた県民教育研究所(仮称)設立準備会

代表	長崎 明
副代表	坂東 克彦
常任委員	八木 三男
	足立 定夫
	首藤 隆司
	関川 智子
	沼波 貞夫
	本間 藤四郎
	宮本 敏
	吉田 三男
編集委員	若月 又次郎
	磯野 修二
	片岡 弘
	木村 隆利
	佐藤 賢
	須田 一彦
	高橋 坦
	本田 敏彦
	山崎 徹
事務局長	木村 隆利
事務局員	若月 又次郎
	佐藤 賢

事務所
〒951 新潟市東中通一八六
山崎ビル三階
☎〇二五二一 二八二九二四

にいがた県民教育研究所準備会

—入会のご案内—

会費と個人の寄付による県民のための の民間教育研究所をめざす

今、子どもの非行・暴力・問題行動を克服する県民のための教育を実現する道は自主的・民主的な県民の手によってすすめる、地域に根ざす教育研究運動とその機能がどのように発揮されるかにかかっています。

この研究所は、実践者・研究者・医師・弁護士・県民父母がその自由な意志で会員となり、課題と知恵をだしあって対等平等に研究活動をすすめています。目的に賛同するすべての県民が一万円の会費を納入して個人会員として活動に参加できます。

子供の健全な発達・環境づくりのための 基礎的研究・実践と結んだ研究

(1) 調査研究活動

子どもの発達・環境・教育問題や自治体の経済・文化にかかわる調査研究を行います。更に、地域に根ざす教育の創造的・実践的・理論的な研究、政策検討などをすすめます。

(2) 情報・普及活動

調査研究活動の成果や必要とする資料、情報を「新潟の教育情報」「会報」「パンフレット」などで普及します。

(3) 出版・学習講座・相談活動

課題・問題に応じたパンフレットの発行、研究の成果や会員、会員団体の諸活動を広く普及するために、講演会等の開催や図書の出版にとりくみます。

また、会員や県民父母の教育相談、講師の斡旋等もします。

会費一万円は次の口座に

{ 第四銀行東中通支店 普通 1088476 }
{ 郵便振替 新潟一 4 - 12332 }

にいがた県民教育研究所